

かき「いさはや」の大果生産のための最適摘果時期と着果程度						
<p>[要約] かき「いさはや」の摘果時期は生理落果のピークが終わった 7月上旬が最適で、その程度は葉果比20を目安にすればよい。</p>						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

かき「いさはや」は特性を生かした大果生産が望まれているが、そのために必要な着果程度が不明である。そこで生理落果の特性と葉果比から適正な着果程度及び時期を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- ①生理落果は 6月16日から 7月 1日までの間が最も多く、その後減少する。また、生理落果がほぼ終了した 7月30日に摘果した場合は著しく果実肥大が劣る。これらのことから最適な摘果の時期は 7月上旬である。
- ②果実は葉果比を20とした場合が最も大果となる。

[成果の活用面・留意点]

着花が著しく多い場合は摘果だけでは不十分なのであらかじめ 1結果枝 1花蕾を目安に摘らいを実施しておく。

[ 具体的データ ]

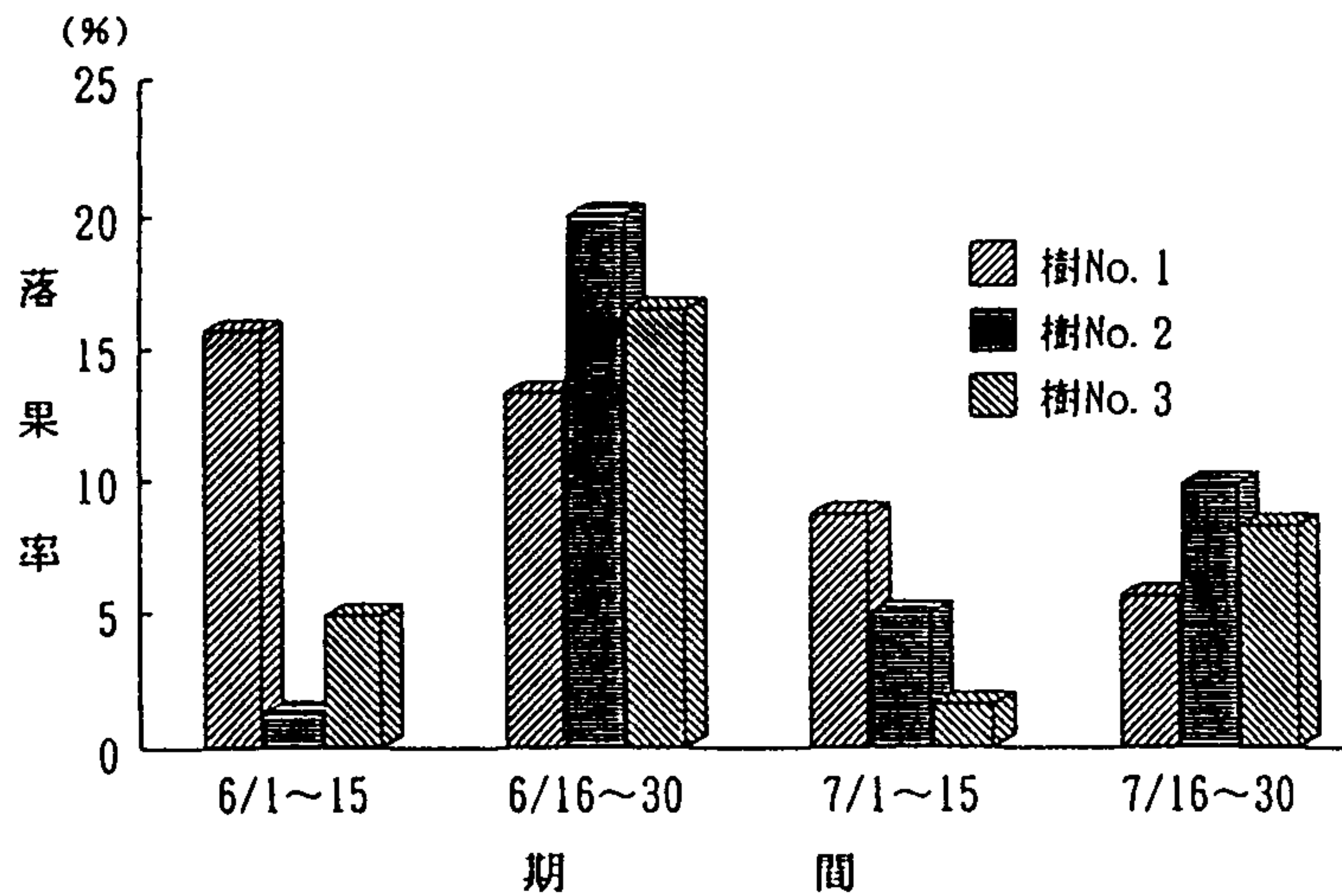


図1 'いさはや' の生理落果波相

表1 摘果時期、葉果比の違いと果実肥大及び品質

摘果時期	葉果比	果実重 (g)	果 径		果皮色*	糖度	種子数 (個)
			横径 (mm)	縦径 (mm)			
7月 1日	1.5	355.3	82.3	71.5	4.4	13.9	2.9
7月 1日	2.0	411.7	97.9	71.9	3.9	13.3	2.7
7月 1日	2.5	392.0	95.5	73.5	4.0	14.3	2.3
7月30日	2.0	237.0	81.3	64.1	4.0	13.8	3.5

\* 果皮色：カラーチャート値

[ その他 ]

研究課題名：かき 'いさはや' の高品質果実生産実証試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年（平成4～5年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：生理落果波相の年次変動がどの程度あるのか不明である。